

埋文センターの情報発信について

藤 谷 誠

1 はじめに

近年、各地の埋蔵文化財センターでも多くの機関がホームページを立ち上げて、インターネットを利用した情報発信を行っている。

今回、平成16年分（平成16年1月～平成16年12月期）の埋蔵文化財センターのホームページのアクセス数の推移についての調査を行った。アクセスカウンタが設置されているページを対象にしたが、遺漏があればご容赦願いたい。

これを元に、各ページの内容（構成要素）との相関関について考察を加えた。なお、内容の調査は、平成16年12月に実施したので、年の途中で各ページに大きな刷新があれば、正確な相関を示していない場合もあることをおことわりしておく。

内容とアクセス数の相関を考察することによって、埋蔵文化財センターのより効果的な情報発信のあり方の参考としていただければ幸いである。

2 対象としたページ

今回、対象としたホームページは、原則として行政的な発掘調査を行っているか、あるいはその調査成果品を管理している公的な埋蔵文化財センターのもので、独自の内容を持っているページに限定した。また、埋蔵文化財センターのこのようなホームページの中で、アクセスカウンタを設置してあるものを対象としたが、その割合は全体の9割程度となっている。アクセスカウンタについては、ページ刷新等により、撤去したもの、途中で入れたものもあったが、6ヶ月以上アクセス数を取れたものについては、対象とした。

対象となった中で、それぞれ都道府県関係の機関をK1から数字で、市町村関係（広域調査機関も含む）の機関をS1から数字で示した。

3 アクセス数について

1) 調査方法

アクセス数は、毎月月末にカウンタの数字を記録し、前月末の数字との差をカウントし、その月のアクセス数とした。記録の時間は、極力午前中としたが、月によっては夕方までずれ込むものもあった。

2) アクセス数とグループ化

アクセス数を103ページの表1に示した。表中の「-」となっている項目は、アクセスカウンタが不調であったり、撤去されていたりしてアクセス数が計測できなかったものである。月

平均アクセス数は、各月合計数を単純に月数で割ったもので、小数点以下は切り捨ててある。

まず各月合計アクセス数は最大 41,019 件、最小 1,406 件となった。これを月平均アクセス数でみると、最大 3,781 件、最小 117 件、月平均 1,380 件となっている。単純に月平均でみると約 12 倍の格差が認められた。

機関別では、都道府県機関のアクセス数の平均が月平均 1,509 件、市町村機関のものは、これが 885 件となっている。月単位でのアクセス数をみると、最大の 4 月が 1,590 件、最小の 1 月が 1,233 件となっている。

以下のホームページ構成要素との関係を考察するために、これらの機関を、月別のアクセス数を元に、便宜上、2000 件以上を上位グループ、1000 件から 1999 件までを中位グループ、999 件以下を下位グループとして 3 つに分類することにした。

4 ホームページの構成要素の分類

アクセス数を増加させる要因には、ホームページの見易さや更新頻度などの要因もあるが、それらを数値化することは難しいため、今回は内容要素を分類しその有無について調べる手法をとった。

ホームページの構成要素について、以下の大別 5 種類、細別 26 種類の要素に分類した。

所在地や業務・組織が変化しない限り不変のものを「定型的静的コンテンツ」とした。細別では所在地・連絡先情報（住所・電話番号・地図・mail・休所日）、業務紹介、施設紹介、組織紹介、利用案内、資料貸し出し閲覧案内に分かれる。資料の案内については、本来利用案内の一部に含まれるが、埋蔵文化財センターといった資料の収蔵機能をもった施設の特質として、別項目とした。定型的静的コンテンツは、資料貸し出し閲覧を除くと、埋文センター以外の機関でも形の違いはあるにせよ必ず持っている情報である。

年単位以内で変化する内容を持ったものを「動的コンテンツ」とした。具体的には、行事の案内や発掘調査・現地説明会等である。この中でも行事案内については、主催事業のみの案内と主催事業以外の周辺地域の案内の 2 つに分類した。

各埋蔵文化財センターが収蔵している資料や遺跡の情報及び地域の遺跡の情報を「蓄積型コンテンツ」とした。今後、調査の進展によって、内容が充実していく方向にあるため、蓄積型の呼称をつけた。内容は、収蔵資料の紹介、遺跡の紹介及びデータベースとした。データベースについては、遺跡・遺物・写真・文献に細別した。遺跡は、更にテキストと画像、GIS に分け、遺物はテキストと画像に分けた。また、収蔵品と遺跡の紹介はデータベースと重複する部分もあり、基本的にデータベースに記載があれば、この項目も連動する形となる。この蓄積型コンテンツは、動的コンテンツとともに埋蔵文化財センターが持っている固有の情報と言えよう。

各埋蔵文化財センターで刊行した出版物について、蓄積型コンテンツとは別に「刊行物系コンテンツ」とした。インターネットの普及により、今後も電子的な出版物が増える見込みであるため、別項目とした。具体的には、発掘調査報告書、広報誌、年報、研究紀要等が該当する。

表1 平成16年ホームページアクセス数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	各月合計	月平均
K 1	4,773	4,513	3,735	4,194	4,041	3,545	3,830	-	-	3,133	3,347	2,708	37,819	3,781
K 2	2,221	2,377	2,186	6,397	5,563	4,732	3,286	3,697	2,840	2,833	2,604	2,283	41,019	3,418
K 3	2,780	2,962	3,886	3,630	3,793	4,048	3,557	3,336	3,418	3,496	3,243	2,843	40,992	3,416
K 4	2,110	2,594	2,267	3,752	3,175	4,653	4,044	3,429	4,456	2,688	3,922	3,164	40,254	3,354
S 1	3,394	2,836	2,952	2,813	2,924	2,878	2,752	2,669	2,868	3,236	2,908	2,649	34,879	2,906
K 5	1,156	2,621	2,297	2,475	2,643	2,789	2,221	1,990	2,309	2,586	2,348	2,605	28,040	2,336
K 6	1,972	2,121	1,860	2,616	2,747	2,456	2,438	-	-	2,674	2,363	2,031	23,278	2,327
K 7	1,877	2,187	1,640	2,388	2,272	2,086	1,832	1,676	1,842	2,135	1,786	1,511	23,232	1,936
K 8	1,372	1,402	1,486	3,086	2,097	1,802	2,168	1,506	1,335	1,321	1,341	1,457	20,373	1,697
S 2	1,404	1,202	1,190	1,203	1,213	2,391	1,479	1,456	1,445	2,407	2,407	1,560	19,357	1,613
K 9	1,477	1,109	1,233	1,893	1,795	1,707	1,554	1,315	1,717	1,591	1,465	1,971	18,827	1,568
K 10	1,371	1,247	1,379	1,662	1,715	1,985	-	-	-	-	-	-	9,359	1,559
K 11	1,190	1,277	1,260	1,659	1,439	1,852	1,866	1,341	1,403	1,675	1,591	1,952	18,505	1,542
K 12	1,170	1,294	1,205	1,457	-	-	1,381	1,202	1,141	1,209	1,056	1,092	12,207	1,220
K 13	-	-	-	-	-	-	1,156	1,165	1,130	1,422	1,214	968	7,055	1,175
K 14	1,069	881	1,017	956	1,164	1,116	1,256	1,297	1,364	1,332	1,241	1,083	13,776	1,148
K 15	833	1,016	837	775	761	891	901	1,340	970	1,015	1,023	921	11,283	940
K 16	804	934	766	1,056	1,078	1,046	987	798	877	997	911	729	10,983	915
K 17	1,061	1,077	1,035	913	924	955	829	827	782	741	950	800	10,894	907
K 18	1,015	957	977	915	1,034	859	834	832	850	850	-	759	9,882	898
K 19	708	665	774	1,010	1,010	1,086	882	934	950	1,034	902	759	10,714	892
K 20	679	844	1,012	983	878	810	855	851	929	957	943	966	10,707	892
K 21	709	756	868	861	820	1,025	1,165	1,147	921	856	783	787	10,698	891
K 22	764	690	680	626	1,275	847	866	864	731	727	703	577	9,350	779
K 23	799	746	655	940	931	1,077	699	610	522	795	611	528	8,913	742
K 24	599	615	639	776	862	724	675	717	596	-	-	-	6,203	689
K 25	522	763	660	621	622	522	566	675	571	665	638	605	7,430	619
S 3	591	517	629	575	581	807	745	693	680	511	485	572	7,386	615
S 4	572	455	515	687	700	723	565	609	658	655	-	-	6,139	613
K 26	706	863	674	611	688	434	407	489	547	618	620	528	7,185	598
K 27	590	469	686	494	471	510	553	485	454	479	517	439	6,147	512
S 5	132	142	176	203	197	205	196	220	212	206	153	172	2,214	184
S 6	201	131	189	171	152	144	171	152	151	142	128	110	1,842	153
S 7	92	81	141	102	144	150	101	142	127	96	120	110	1,406	117

発掘調査報告書は目録のみと電子図書化（PDF ファイル化）の2つの項目に分け、それ以外は、内容が電子図書化（PDF ファイルまたはHTML ファイル）されているかどうかを基準とした。

「その他のコンテンツ」としては、リンク集、子供向けのコンテンツ、質問コーナー、英語のページ、基本情報の開示等を含めた。前に分類した項目に入れるのがむずかしいものを列記してある。

これらコンテンツについて、内容の充実度等は度外視して、その有無等についてまとめたのが31ページの第2表となっている。アクセス上位グループが7機関、中位グループが9機関、下位グループが18機関となっており、その境界には横線を引いてある。

5 アクセス数と各コンテンツの関係について

1) 定型的静的コンテンツ

所在・連絡情報では、住所・電話番号の基本情報は、ほとんど全ての機関で掲載されているが、地図、電子メールについては、下位グループの方に掲載していない機関が多い傾向がある。業務紹介・施設紹介・組織紹介については、中位グループが最も割合が高く（77%）、上位グループがそれに次ぎ（71%）、下位グループの割合が一番低い（61%）傾向があり、上・中位グループの割合が高い傾向がある。

利用案内については、上位グループで71%、中・下位グループで40～50%台の機関が掲載しており、上位と中・下位グループでその差が認められた。

資料の貸し出し・閲覧情報については、案内と書式をダウンロードできるようにしている機関が、上位グループで42%、中・下位グループでともに11%となっている。こちらについては、4倍近い差が認められる。

2) 動的コンテンツ

主催行事予定については、58%の機関が掲載しているが、上位グループと下位グループに差はあるものの中位グループの掲載率が高く（88%）、上位（57%）、下位グループ（44%）と続く結果となった。

地域内行事予定については、上位グループ（57%）と中・下位グループ（ともに10%台）に5倍位の差が認められた。今回最も差の出たコンテンツである。発掘調査状況報告については、上位グループが11%、中位グループが66%、下位グループが61%と、中・下位グループが上位グループを上回る結果となっており、大変興味深い。

現地説明会については、PDF化を含めた紹介している機関の割合が上位グループが42%、中位グループが33%、下位グループが44%と、中位グループで低くなるものの、上位グループと下位グループが多くなる傾向が認められる。

3) 蓄積型コンテンツ

収蔵品紹介では、上位グループでは57%、中・下位グループで44%の機関がホームページに掲載しており、上位グループが若干高い割合となっている。

遺跡紹介は、全体的に64%の機関が掲載しており、その割合は、上位グループで85%、中位グループで55%、下位グループで61%となっている。これについても、上位グループがより高い割合となっている。

データベースについては、その公開割合の絶対数自体が少ないが、各データベースごとで見ると以下となっている。遺跡データベースを公開している機関の割合は、上位グループで42%、中位グループで0%、下位グループで16%となっている。まだまだ公開している機関は少ないものの、画像を含めたものやGISシステムを持つものなども公開されはじめています。遺物

データベース、写真データベースについては上位グループの一部のみが公開している。文献データベースについては、上位グループの掲載割合が28%、下位グループのそれが11%となっている。

4) 刊行物系コンテンツ

発掘調査報告書情報については、約半数の機関が掲載しており、その掲載割合は、PDF化したものを含めて上位グループが57%、中位グループが33%、下位グループが50%となっている。

広報誌（PDF ファイル）の掲載割合は、上位グループが最も高く85%、中位グループで66%、下位グループで38%となっており、上位グループの割合が下位グループの2倍以上となっている。

年報については、PDF化してる機関の割合は、上位グループで14%、中位グループで33%、下位グループで5%となっている。同様に研究紀要は、上位グループで28%、中位グループで22%、下位グループで16%となっている。

5) その他のコンテンツ

リンク集は、全体の85%の機関が掲載しており、それぞれの割合は上位グループ85%、中位グループ88%、下位グループ83%となっており、それぞれの割合に特に大きな有意差は認められなかった。

子供向けのコンテンツについては、上位グループの掲載割合が42%、中位グループが44%、下位グループが22%となっており、上・中位グループの掲載割合が高い傾向が認められる。Q&Aコーナーは、上位グループが14%、中・下位グループで22%が掲載されている。

英語のページは掲載している機関が2機関のみとなっている。また、情報開示は、上位グループが14%、中位グループが22%、下位グループが27%となったおり、上位グループよりも中・下位グループの方が割合の高い傾向が認められた。

6 考 察

5で認められたアクセス数とコンテンツの相関関係から、以下のような傾向を推定することができた。

(1) 掲載することによるアクセスUP効果が高いと思われるコンテンツ

上位グループの掲載率が高く、なおかつ中・下位グループより2割以上の差があるものについて、アクセスUP効果が高いコンテンツであると推定した。以下、利用案内（上位71%、中位44%、下位50%）、資料貸出・閲覧関係の情報（上位42%、中位11%、下位11%）、地域行事案内（上位57%、中位11%、下位17%）、遺跡紹介（上位85%、中位55%、下位61%）、PDF化した広報誌（上位85%、中位66%、下位38%）、データベース（上位42%、中位0%、下位16%）の6つのコンテンツがこれにあたる。この内、上位グループと中・下位グループとの差が最も大きかったのは、資料貸出・閲覧関係の情報であった。

(2) 掲載することによって若干アクセス UP が認められると思われるコンテンツ

収蔵品紹介（上位 57%、中・下位 44%）、研究紀要 PDF 版（上位 28%、中位 22%、下位 16%）の 2 コンテンツについては、(1) に取り上げたコンテンツよりも掲載率の差は少ないものの、上位グループが中・下位グループよりも多い傾向があり、若干のアクセス UP 効果があると推定される。

また、子ども向けのコンテンツについては、上位グループが 42%、中位グループが 44%と下位グループの 22%を大きく上回っており、若干のアクセス UP 効果が認められると思われる。

(3) アクセス UP との相関を認めることがむずかしいコンテンツ

利用案内と資料貸出・閲覧をのぞく定型的静的コンテンツ、行事予定案内、発掘調査状況報告、現地説明会 PDF 資料、発掘調査報告書、年報 PDF 版、リンク集、情報開示については、上位グループと中・下位グループの相関に有意性は認めることはむずかしかった。直接アクセス UP に関係するとは考えることは難しいかもしれない。

7 まとめ

以上、埋蔵文化財センターのホームページアクセス数とコンテンツの相関関係についてまとめた過程で、コンテンツによってはアクセス UP に効果があるものがあると推定できた。特に、利用関係のコンテンツのポイントが高く、「利用者にやさしい」情報発信がアクセス数に反映されていることを再認識することが出来た。

また、一部の独自コンテンツについてもアクセス UP 効果が認められており、特にその効果が認められなかった独自コンテンツと比較して、生のままの資料（発掘調査報告書・発掘調査状況）よりも、それを加工したコンテンツ（遺跡紹介・データベース・収蔵品紹介等）の方がアクセス UP 効果が高いことも再認識することが出来た。

このような傾向から、情報発信においては、利用案内の詳細な提示や独自資料をわかりやすく加工したコンテンツの掲載が求められていると推定される。

行政発掘調査等で得られた成果品については、埋蔵文化財が国民共有の財産である以上、広く国民に公開・利用されなければならない。今後、研究者の利用のみにとどまらず、学校教育や生涯学習とも連携して広くその成果を利用してもらう一つの大きな手段として、インターネットのホームページを利用した情報発信がある。

情報発信については、その形態によって通信費・人件費等の様々な経費がかかっている。また、製作更新担当職員のスキルによっても、その仕上がりに大きな違いが出、最終的なアクセス件数にも反映されるものと思われる。単純に考えると、アクセス件数が少ないと、1 件あたりの提供コストが高くなり、それが多くなると提供コストは低くなる。組織体制・人員・予算等の問題もあるが、今後、充実した情報発信を行うためには、コスト意識念頭において、コンテンツの充実や研修などによる職員のスキルアップ等により、一層効率的な情報発信を行っていく必要がある。

埋文センターの情報発信について

<参考にしたホームページ（北から）>

- <http://www.domaibun.or.jp/> (財) 北海道埋蔵文化財センター
- <http://www.ao-maibun.jp/> 青森県埋蔵文化財調査センター
- <http://www.vill.inakadate.aomori.jp/maizou/> 田舎館村埋蔵文化財センター
- <http://www.echna.ne.jp/%7Eimaibun/index.html> (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- <http://www.vill.takizawa.iwate.jp/section/maibun/> 滝沢村埋蔵文化財センター
- http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm 秋田県埋蔵文化財センター
- <http://www.yamagatamaibun.or.jp/> (財) 山形県埋蔵文化財センター
- <http://www.mahoron.fks.ed.jp/> 福島県文化財センター白河館
- <http://www.maibun.or.jp/> (財) とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
- <http://www.ibaraki-maibun.org/> (財) 茨城県教育財団埋蔵文化財部
- <http://www.saimaibun.or.jp/> (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- <http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp/> (財) 千葉県文化財センター
- <http://www.inba.or.jp/> (財) 印旛郡市文化財センター
- <http://www.kimitsugunshibunkazai-center.or.jp/> (財) 君津郡市文化財センター
- <http://www.planet.pref.kanagawa.jp/city/koukogaku/zaidan.htm> (財) かながわ考古学財団
- <http://www.maibun.net/> (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
- <http://www.pref.toyama.jp/branches/3041/3041.htm> (財) 富山県埋蔵文化財センター
- <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/> (財) 石川県埋蔵文化財センター
- <http://www.grn.janis.or.jp/~maibun/> 長野県埋蔵文化財センター
- <http://www.maibun.com/index01.html> (財) 愛知県埋蔵文化財センター
- http://www.maibun.gifu-net.jp/f_top.htm (財) 岐阜県教育文化財団文化財保護センター
- <http://www.city.kakamigahara.gifu.jp/maibun/> 各務原市埋蔵文化財調査センター
- <http://www.museum.pref.mie.jp/maibun/> 三重県埋蔵文化財センター
- <http://www.shiga-bunkazai.jp/> (財) 滋賀県文化財保護協会
- <http://www.kyotofu-maibun.or.jp/> (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター
- <http://www.kyoto-arc.or.jp/> (財) 京都市埋蔵文化財研究所
- <http://www.occh.or.jp/> (財) 大阪府文化財センター
- <http://www.occpa.or.jp/> (財) 大阪市文化財協会
- <http://www.city.okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/> 岡山市埋蔵文化財センター
- <http://hmaibun.d-net.co.jp/> (財) 広島県教育事業団埋蔵文化財調査室
- <http://www.pref.tottori.jp/maibun/> (財) 鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター
- <http://www.pref.shimane.jp/section/maibun/> 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
- <http://www.tokushima-maibun.or.jp/> (財) 徳島県埋蔵文化財センター
- <http://kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun/> (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター
- <http://www.jomon-no-mori.jp/> 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- <http://www.maizou-okinawa.gr.jp/> 沖縄県立埋蔵文化財センター